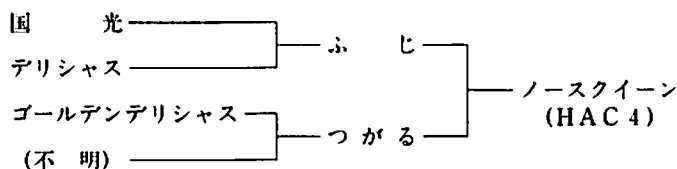


III 果 樹

1. りんご

(1) ノースクイーン (系統名 HAC 4) 1987年
 登録番号：(北海道)：りんご北海道第9号
 (種苗法) 第1864号

来歴 本品種は、1971年に北海道立中央農業試験場において「ふじ」を母、「つがる」を父として人工交配を行い育成したもので、1981年以降「HAC-4」(HACはHokkaido Apple Cloneの略)の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 樹姿は中間で樹勢は中位であるが「つがる」よりやや強く、「レッドゴールド」と同程度である。樹の生育は良好で、樹の大きさは中位であり「つがる」と同程度である。
2. 枝梢は褐色で細く、節間長は長く、皮目は大であり「つがる」と同じであるが、皮目数は非常に多い。葉の形は楕円形で「つがる」よりいくぶん丸味を帯びており、大きさは「つがる」と同程度で、きょ歯は鋭きょ歯であり、葉柄は「つがる」より短い。
3. つぼみの色は濃桃色であるが、「つがる」よりいくぶん淡い。花は白～淡桃色で、おおきさは「つがる」よりやや大きく、花弁は卵形で「つがる」よりやや幅が広い。
4. 発芽期から展葉期までは「つがる」とほぼ同時期、開花期から落花期までは「つがる」、「レッドゴールド」より1～3日早く進み、「旭」とほぼ同時期である。
5. 頂芽の花芽率は「つがる」より低い、腋芽の萌芽が良く、頂芽の着生数が多いので1樹当たりの頂花数は多い。また、腋花芽の着生は「つがる」より少ない。
6. 早期落果はほとんどなく、後期落果は年によって認められるがその程度「つがる」より少ない。
7. 成熟期は10月中旬で「つがる」より約1週間遅く、「レッドゴールド」より約1週間早く、「旭」とほぼ同時期である。なお、熟期には同一樹内でも多少のばらつきが見られる。
8. 結実樹齡に達するのは、3～4年で「つがる」、「レッドゴールド」並で、生産性は高く「つがる」と同程度、隔年結果性の傾向がいくぶん認められるが、その程度は「つがる」と同程度である。
9. 果実の大きさは250～300gで、果形は円形、果皮色は地色が黄味の強い黄緑色で、陽向面が淡紅～紅色に着色する。果皮面は滑らかで、果粉、脂質は殆どなく、さびもほとんどない。
10. 果肉の硬さ及び肉質は中位で、完熟果では蜜が僅かに入り、糖度は13～14%、酸度は0.5g/100ml前後と甘味、酸味が適度にあり、果汁が多く芳香もあるので食味は良好である。
11. 最も食味の良いのは収穫直後～3週間であるが、適食期は冷蔵で10月中旬～12月下旬で、それ以降は酸味、果汁が急激に減少する。貯蔵性は冷蔵で約2箇月間であり、貯蔵中における貯蔵障害は認められない。
12. 標準栽培において、特に問題となる病害虫は認められない。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適応し、全栽培面積の約10%を本品種におきかえる。栽培上の注意は、隔年結果の傾向が幾分認められるので、早期摘果を行い着果過多にならないようにする。熟期にばらつきがあるので、収穫は2～3回に分けて行う。樹勢が強くと果実の品質が低下するので、適度な樹勢を保つような剪定と肥培管理に努める。

試験場名	品 種 名	展葉期 (月日)	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	一樹当たり 換算収量 (kg)	一果重 (%)	硬 度 (ポンド)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	試験年次
中央農試	ノースクイーン	5. 8	5.29	10.12	18.7	291	14.4	13.5	0.44	1983~1986
	つ が る	5.10	6. 1	10. 6	17.4	239	11.1	13.8	0.35	
	レッドゴールド	5. 8	6. 1	10.20	12.0	199	18.0	15.2	0.55	
	旭	5. 8	5.30	10.13	5.7	238	13.5	13.4	0.96	
北海道農試	ノースクイーン	5. 5	6. 2	10.24	6.5	226	13.4	14.3	0.44	1986
	レッドゴールド	5. 5	6. 5	10. 2	2.8	215	15.3	14.7	0.43	
	旭	5. 5	6. 5	10.20	6.6	159	20.4	15.6	0.59	
道南農試	ノースクイーン	5. 9	5.27	10.14	9.7	267	13.5	14.2	0.52	1983~1986
	つ が る	5. 9	6. 2	10. 3	22.2	237	14.6	13.8	0.41	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 37-41(1987)。

(2) ニュージョナゴールド (原名 ニュージョナゴールド) 1988年

登録番号: (北海道) りんご準第9号
(種苗法) 第63号

来歴 本品種は、1973年に青森県弘前市の齊藤昌美氏が「ジョナゴールド」の早期着色系統として発見し、1980年福島天香園が種苗登録した品種で、1980年に北海道立中央農業試験場が導入し、以降本道での適応性を試験し、1988年に優良品種となった。

特性概要

1. 樹勢は中程度、樹姿はやや開張性、新梢は太く、節間はやや狭いので樹はコンパクトである。葉の大きさは大、葉のきょ歯は鈍きょ歯である。花の色は蕾期、開花期ともに淡桃色である。花芽は短果枝に多く着生し、着生数も多い。発芽期～展葉期は「ハックナイン」、「ふじ」と同じで、開花期～落葉期は「レッドゴールド」とほぼ同じである。
2. 熟期は10月下旬で「レッドゴールド」より4日遅く、「アリシャス」、「ハックナイン」より3～4日早い。果実の大きさは10月中旬以降殆ど変わらないが、早採りすると着色が著しく不良で、糖度も低く、渋味があるので適期に収穫する必要がある。
3. 結果樹齢に達するのは4年生ごろであり、「レッドゴールド」とほぼ同じで普通である。豊産性で「つが

る」、「レッドゴールド」、「ふじ」と比べ同等以上の収量がある。

4. 果実は、大きさは280～340gと大きく、球揃いは良好で円形、地色は黄緑、果皮色は赤で縞が入る。果肉は黄色味の強い黄白色で、硬さは中、きめはやや粗である。果汁は多く、糖度は15.0%前後、酸度は0.6～0.7g/100mlで、甘味、酸味とも濃厚で食味が良い。
5. 適食期は11月中旬～1月中旬であり、貯蔵中の障害として脂質やゴム病の発生がある。
6. 早期落果は一般品種並で後期落果もほとんどなく、斑点落葉病に強く、他の耐病虫性は中程度で、一般栽培では特に問題となる病害虫の発生はない。
7. 三倍体なので花粉の稔性が低く、受粉樹としては使用できない。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適応し、全栽培面積の5%を本品種におきかえる。栽培上の注意は、無袋栽培とし収穫に気を付け、早採り・遅採りにならないように注意する。果実が小さいと品質が劣り、大き過ぎると脂質、ゴム病の発生が多くなるので適正な着果に努める。枝が込むと花芽の質が不良となり、青実が多くなるので、樹内に光が十分入るように剪定する。また、豊産性であるが枝が衰弱しやすいので、早めに切返し剪定を行い、枝の若返りを図る。本品種は三倍体品種なので、受粉管理に注意する。

試験場名	品 種 名	展葉期 (月日)	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	一樹当たり 換算収量 (kg)	一果重 (%)	硬 度 (ポンド)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	試験年次
中央農試	ニュージョナゴールド	5.11	6.3	10.24	22.5	309	14.9	15.1	0.72	1984~1987
	レッドゴールド	4.12	6.3	10.21	22.4	209	16.4	15.2	0.52	
	スターキングテリシャス	5.13	6.4	10.27	6.4	193	16.5	14.6	0.41	

注 1) 試験年次：1984~1987年。

2) 台木はM26台，樹齡4~7年生まで。

参照 1) 北海道農務部編，昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項，44-48(1988)。

2. な し

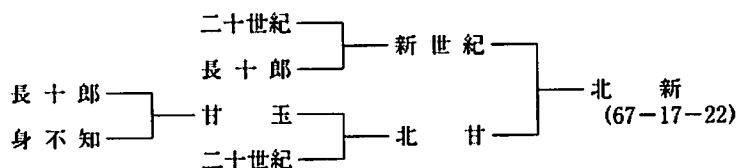
(1) 北 新 (系統名 67-17-22) 1995年

登録番号：(北海道) なし北海道第14号

(農水省) なし農林17号

(種苗法) 出願中

来歴 本品種は，1967年に農林水産省北海道農業試験場が「新世紀」を母とし，「北甘」を父として交配し育成したもので，1985年から「61-17-22」の系統名で各種の試験を行い，1995年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

- 樹勢は強く，樹姿は直立と開張性の中間で主枝はほぼ45度の角度で伸長するため整枝剪定がしやすく樹形の維持が容易である。枝の発生は密で，新梢の伸びは短く，新梢の太さは中程度である。短果枝の着生は多く，中果枝の着生も「北甘」に似てやや多く，腋花芽の着生は中程度である。耐寒性はやや強で「北甘」並で，樹の生育は「北甘」より優れている。
- 若葉は褐色に近い黄緑色，成葉は卵形に近く小さく，葉の先端の角度は中程度で基部は丸みを帯びている。葉緑状態，鋸歯の角度はともに中程度で鋸歯の大きさは小さい。葉柄の長さは「北甘」よりわずかに短い。品種全体では中位，蕾はほとんどが白で，花卉は円形，葯は紅色で花粉は多い。
- 交配和合性は「北甘」「身不知」「北豊」「北星」「ポートレット」「ブランデイワイン」で認められた。
- 発芽期は「北甘」より1日早く開花期はほぼ同じで，「身不知」とは満開期で2日遅い。収穫適期は9月下旬~10月上旬で「北甘」とはほぼ同時期か3日遅れて，「身不知」より約3週間早く，早生種の晩に属する。
- 収量は，早生種の晩としては多収性で「北甘」「北星」

「長十郎」より多く，「身不知」「北豊」より少ない。平均一果重は「北甘」「北星」「長十郎」より大きく，「身不知」「北豊」よりは小さい。

- 果実の大きさは平均約326gで「北甘」よりも大きく揃いも良好である。果形は偏円形で，果皮色は成熟すると黄緑色になり果点は小さく外観は良好である。果面のさびは「新世紀」に似て，果梗の周辺に外観を損なわないさびが発生することがある。裂果は秋期に降雨が多いと僅かに見られるが，「北甘」よりも極めて少ない。果心の大きさは「北甘」に似て小さい。
- 果肉は白色で渋みが無く香気わずかにある。切り口の褐変は「長十郎」より遅く，果肉硬度は，「北甘」よりわずかに硬い。肉質はやや密で品質は良く，糖度は12.0%，酸度は0.23g/100mlと「北甘」より高い。また，糖度と酸度の調和が良く，食味は良好である。
- 貯蔵性は，普通貯蔵（風通しの良い室内または日陰に置いた場合）で11月2日（収穫後35日間）頃までである。収穫直後に冷蔵すると12月から翌年1月頃まで貯蔵できる。
- 通常の防除で病害虫の発生は見られていない。

栽培適地と奨励態度

道内日本なし栽培地帯に適する。観光果樹園などへの新植及び既存品種の代替えとして普及する。栽培上の注

意は、収穫が早すぎると甘味が不足するので、果皮が黄緑色になってから収穫する。着果過多は果実が小さくなるので、やや強めの摘果を行う。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	平均 一果重 (%)	硬 度 (lbs)	糖 度 (%)	リンゴ酸 (g/100ml)	食 味	試験年次
北海道農試	北 新	4.26	5.22	9下~10上	326	9.2	12.0	0.23	良	1990~1994
	北 甘	4.27	5.22	9下~10上	260	7.7	11.3	0.17	やや良	
	身 不 知	4.21	5.20	10中~下	401	13.5	11.7	0.13	中	
中央農試	北 新	5. 6	5.24	9.27	269	5.4	11.3	0.22	良	1991~1994
	北 甘	5. 8	5.23	9.27	253	4.6	10.9	0.12	やや良	

注 1) 果実特性は1990~1994年平均で示す。

2) 硬度はマグネステラー型硬度計を用い、北海道農試は7/16インチ、中央農試は5/16インチプランジャー使用の値である。

参照 1) 北海道農政部編、平成7年普及奨励ならびに指導参考事項、21-24(1995)。

3. おうとう**(1) 南 陽 (原名 南陽) 1988年**

登録番号：(北海道) おうとう準北海道第2号

来歴 本品種は1957年に山形県農業試験場置賜分場で、おうとうの胚培養の試験の際に得た「ナポレオン」の交雑実生の中から選抜されたもので、1971年から山形園芸試験場で特性調査を行ったのち、1974年農産種苗法による種苗名称登録を出願し、1978年に登録された。1980年に北海道立道南農業試験場が導入し各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

特性概要

- 樹勢は「ナポレオン」ほどではないが強い方である。樹体は「北光」「佐藤錦」よりは大きくなるが、「ナポレオン」よりは小さい。1年枝は太く赤褐色である。葉身は大きく、緑が波うつのが特徴である。花は白色で大きく、小花数は3花程度である。
- 生育相は「ナポレオン」より、発芽期で2日、満開期で3日程度遅い。
- 熟期は「ナポレオン」と同程度かやや早く、道南では平均して7月10日頃、北後志では7月20日頃収穫が始まり7月下旬に収穫が終わる。

- 花芽の着生は「ナポレオン」と同程度である。結実は中位であるが、一果重が大きいため生産力が高い。
- 果実の大きさは8~10gで極めて大きく、果形は短心臓形で「ナポレオン」よりやや丸味を帯びる。果色は「ナポレオン」に似て陽向面が帯赤するが、全面に着色することは少ない。糖度はブリックスで14%程度で高く、酸味は「ナポレオン」より少なく食味は極めて良い。
- 降雨による裂果は「ナポレオン」より明らかに少なく、病害虫については、一般栽培では特に問題はない。
- その他、大玉のため単位時間当たりの収穫量が多い。「北光」「ナポレオン」とは交配親和であるが、「佐藤錦」とは交配不親和である。

栽培適地と奨励態度

道南及び道央のおうとう栽培地域一円に適し、おうとう栽培面積の30%程度に普及する。栽培上の注意は、受粉用品種としては「北光」などの親和性のある品種を用いる。「佐藤錦」は受粉用品種としては使用出来ない。陽当たりが不良であると着色が鈍くなるので、栽植距離を十分にとり整枝剪定によって陽当たりを良くする。その他はおうとうの一般栽培に準ずる。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	満開期 (月日)	良品収量 (kg)	一果重 (g)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	試験年次
道南農試	南 陽 ナポレオン	5. 3	5.17	11.6	9.1	13.9	0.58	1985~1987
		5. 1	5.14	4.4	7.5	13.6	0.87	

注) 一果重, 糖度, 酸度の成績は1982~1987年の平均値。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 48-51(1988)。

4. ク リ

(1) オオタムポロン (系統名 道南1号) 1990年
登録番号: (北海道) その他北海道第17号
(種苗法) 3226号

来歴 本品種は, 1966年に北海道立道南農業試験場で道南の在来種「銀太郎」の種子, 約5,000粒の実生の中から, 葉形が栽培グリに近いもの約500個体を選抜し, その後, 養成された実生は播種後7~8年で結実し, その中から, 果実特性, 耐寒性等で優良なものが選抜され, 1985年から各種の試験を行い, 1990年に優良品種となった。

特性概要

- 樹姿はやや開帳で, 樹勢は強く樹体の拡大は早い。樹体は「銀太郎」に比べると明らかに大きくなる。枝梢の長さは「丹沢」と同程度, 太さは「丹沢」より太く, 枝梢の色は褐色である。葉形は長楕円状ひ針形, 葉身は「丹沢」「銀太郎」よりも明らかに大きい。葉の毛茸は「丹沢」より多く, 葉柄は「丹沢」より太い。雄花穂は「丹沢」よりやや直立する。
- 発芽期および開花期は「銀太郎」より明らかに早く, 果実の熟期も「銀太郎」より明らかに早い。
- きゅう果(いが)の形は扁球で, 大きさは「丹沢」と同じく中程度, とげの長さは「丹沢」と同様短く, 密度は「丹沢」と同程度。きゅう果は果実が成熟すると, その多くは樹上で裂開し, 含有する果実を落とすか, 果実を含んだまま落下する。
- 果実は1きゅう果当たり1~3果含まれ, 果実の形

はほぼ円形で毛茸が多く, 大きさは「銀太郎」よりやや大きく, 色は褐色である。双子果は「丹沢」と同じ位発生するが, 果頂部裂果の発生は少ない。果肉の色は黄色で, 肉質は粉質である。果実の比重は1.06と高く, 食味は良い。

- 収量は「銀太郎」より明らかに多い。
- 「筑波」「ちの7」「銀太郎」よりは凍害の発生は少なく耐寒性は明らかに高い。
- 自家受粉した場合の着きゅう率は11%と低く, 実用的には自家不親和に近い。
- 標準栽培において, 特に問題となる病害虫は認められない。

栽培適地と奨励態度

道南(渡島, 桧山)及びこれに準ずる地帯に適應する。栽培上の注意は, 排水不良地や風当たりの強い場所は凍害が発生しやすいので十分な改善を図る。低率で自家結実するが実的には自家不親和に近いので, 必ず受粉用の異品種を混植する。一般に受粉に有効な花粉の飛散距離は10m内外といわれているので, 栽植に当たっては10m以内に受粉用品種が存在するように配置する。なお, 「オオタムポロン」と「オオタムコロン」との間には相互に親和性があり, 受粉用品種として適當である。陽当たりが不良になると樹勢が低下したり, 病害虫の発生を助長したりするので, 間伐や整枝剪定によって陽当たりの改善を図る。無防除で栽培すると, 果実に虫害を被ることが多いので, 防除暦に従う。

(2) オオタムコロン (系統名 道南1号) 1990年
登録番号：(北海道) 其他北海道第18号
(種苗法) 第3227号

来歴 「オオタムポロン」に準ずる。

特性概要

1. 樹勢は強く、樹体の拡大は早く、樹体は「銀太郎」に比べると明らかに大きくなる。枝梢の長さ及び太さは「丹沢」と同程度で、枝梢の色は褐色である。葉形は長楕円状ひ針形、葉の大きさは「丹沢」と同じく中程度で、葉の毛茸は「伊吹」より少ない。葉柄は「丹沢」より短く、雄花穂は「丹沢」と同じく長い。
2. 発芽期および開花期は「銀太郎」よりも明らかに早く、果実の熟期も「銀太郎」よりも明らかに早い。
3. きゅう果の形は扁球で、大きさは「丹沢」より小さく、とげの長さは「丹沢」と同様に短く、とげの密度は「丹沢」と同程度である。きゅう果は、果実が成熟

するとその多くは樹上で裂開し含有する果実を落とすか、果実を含んだまま落下する。

4. 果実は1きゅう果当たり1～3果含まれ、果実の形はほぼ円形、大きさは「銀太郎」よりも小さく育成地では8～9gである。果皮色は褐色、双子果は「丹沢」と同じ位発生し、果頂部裂果の発生はやや多い。果肉の色は黄色、肉質は粉質で、果実の比重は1.09と極めて高く、食味は非常に良い。
5. 収量は「銀太郎」と同程度である。
6. 「筑波」「ちの7」「銀太郎」よりは凍害の発生は少なく耐寒性は明らかに高い。
7. 自家受粉した場合の着きゅう率は15%と低く、実用的には自家不親和に近い。
8. 標準栽培において、特に問題となる病害虫は認められない。

栽培適地と奨励態度

「オオタムポロン」に準ずる。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	満開期 (月日)	収 穫 期 (月日)	一樹当たり 収 量 (g)	一果重 (g)	比 重	双子果 発生率 (%)	試験年次
道南農試	オオタムポロン	4.24	7.18	10.2～10.13	6,162	12.2	1.06	8.4	1987～1989
	オオタムコロン	4.22	7.15	9.25～10.6	4,330	8.4	1.09	11.0	
	銀太郎	4.28	7.25	10.8～10.19	3,363	11.2	1.03	17.1	
中央農試	オオタムポロン	5.7	7.19	10.5～10.18	1,216	8.7	-	-	1987～1989
	オオタムコロン	5.6	7.19	9.30～10.10	845	7.5	-	-	
	銀太郎	5.9	7.23	10.12～10.22	989	7.1	-	-	

注) 1樹当たり収量は1989年の値で示す。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 32-38(1990)。

5. ブドウ

(1) ノースレッド (系統名 安芸津4号) 1991年
登録番号：(北海道) ぶどう準移第6号
(種苗法) 第3117号

来歴 本品種は農林水産省果樹試験場安芸津支場が、寒冷地に適する優良品種の育成を目的として1976年に交配した「セネカ」×「キャンベルアーリー」の組合わせから選抜したもので、1978年に「80-21」の個体番号、1985年から「安芸津4号」の系統名で試験を行い、その結果、寒冷地で有望と判定され、1990年農林水産省果樹試験場が農林登録を行い、種苗登録に申請した。北海道立中央農業試験場では、1985年に本系統の配布を受け、以降各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。

特性概要

1. 樹勢はやや強めで、樹体の生育は「キャンベルアーリー」、「ポートランド」よりも旺盛である。樹冠の広がりや「キャンベルアーリー」よりやや早く、登熟は良好で「キャンベルアーリー」並である。耐寒性は「ポートランド」より強いが「キャンベルアーリー」より弱い。
2. 発芽期・展葉期までは「キャンベルアーリー」、「ポートランド」とほぼ同じで、開花期は「ポートランド」とほぼ同じである。
3. 熟期は「キャンベルアーリー」に比べて1～2週間早く、「ポートランド」と同じかやや早い。
4. 6年生時の1樹当たり収量は、長沼では「キャンベ

ルアーリー」より僅かに少なく、仁木では「キャンベルアーリー」より多い。

5. 果房長は「キャンベルアーリー」より小さく「ポートランド」より大きい。粒着は中～密で、果房重は「キャンベルアーリー」より小さく「ポートランド」と同程度である。果粒は円形で、果粒重は3.5～4g程度、果皮色は紫赤から暗赤色である。剥皮は容易で、果肉は塊状で軟らかい。糖度は18%酸度は0.8g/100ml前後で、フオクシー香に近い特殊な香気をもち、渋みが無く食味が良い。裂果性は「キャンベルアーリー」と同程度で僅かである。

6. 目立った病害虫の発生は認められていない。

栽培適地と奨励態度

道央南部以南の生食用ブドウ栽培地帯に適応し、栽培面積の10%を本品種に置き換える。栽培上の注意は、樹勢がやや強いため、「キャンベルアーリー」よりも栽植距離をやや広めにする。寒害を防ぐため冬期の枝おろしを行う。その際、樹体の折損がないように注意する。糖度が上っても酸が残り、果肉に酸味を強く感じるがあるので、糖度のみでなく酸味にも注意して収穫適期を判定する。赤色系であり、鮮やかな赤色を出すためにも、着果量を1新梢2果房程度とし、結果過多に注意し、枝梢の過繁茂を避け棚下を明るく維持するのが良い。その他は、一般栽培に準ずる。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	開花期 (月日)	収穫期 (月日)	果房重 (g)	果粒重 (g)	1樹当たり 収 量 (kg)	糖 度 (Brix)	酸 (g/100ml)	試験年次
中央農試	ノースレッド	5.12	7.11	10.1	233	4.7	7.1	18.0	0.75	1986～1990
	キャンベルアーリー	5.11	7.9	10.10	324	6.0	8.4	14.5	0.86	
	ポートランド	5.13	7.6	10.1	268	6.0	2.4	15.8	0.48	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 24-26(1991)。

(2) ノースブラック (系統名 安芸津5号) 1992年
登録番号: (北海道)ぶどう進移第7号
(種苗法) 第3457号

来歴 本品種は農林水産省果樹試験場安芸津支場において、寒冷地に適する優良品種の育成を目的として交配した「セネカ」×「キャンベルアーリー」の組合わせから育成されたもので、交配は1976年に行い、1978年に「80-24」の個体番号、1985年からは「安芸津5号」の系統名で試験を行い、その結果、寒冷地で有望と認められ、1991年に農林水産省果樹試験場が「ノースブラック」として命名登録を行い、種苗登録を申請した。北海道立中央農業試験場では、1985年に本系統の配布を受け、1986年から各種の試験を行い、1992年優良品種となった。

特性概要

1. 樹勢は幼木時にはやや弱いが、樹齢が増すと中程度になる。樹体生育は「ポートランド」と同程度で、新梢の登熟度は「キャンベルアーリー」に比べやや劣るが、寒害による枯死率は同程度で、耐寒性は強い。
2. 発芽期及び展葉期は「キャンベルアーリー」と同時期で「ポートランド」より早い。開花期は「キャンベルアーリー」と同時期で「ポートランド」より遅い。
3. 熟期は「ポートランド」及び「ノースレッド」と同

時期で、「キャンベルアーリー」より1～2週間早い。

4. 1樹当たりの収量は「ポートランド」と同等で、生産性は中程度である。
5. 果房は円筒形で、粒着はやや密から密となり、果房長は16cm、果房重は270g程度で「キャンベルアーリー」より小さく、「ポートランド」及び「ノースレッド」よりやや大きい。
6. 果粒は円形で5～6gになり、果皮色は黒色、剥皮は容易で、果肉は塊状と崩壊性の中間であり、種子離れが良い。糖度は16～18%で「ポートランド」よりやや高い。酸は「キャンベルアーリー」より低く、食味は良い。フオクシー香があり、渋みがない。裂果は少なく収穫期の脱粒はない。
7. 目立った病害虫の発生は認められていない。

栽培適地と奨励態度

道央以南の生食ブドウ栽培地帯に適応し、栽培面積の10%を本品種で置き換える。栽培上の注意は、樹冠の拡大を促進するため、接木苗を使用する。寒害を防ぐため、冬期の枝下ろし・枝伏せを行う。その際樹体の折損がないように注意する。着果過多に注意し、着果量を1新梢2果房程度とし、果房重が400gを越えないようにする。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	開花期 (月日)	収穫期 (月日)	果房重 (g)	果粒重 (g)	1樹当たり 収 量 (kg)	糖 度 (Brix)	酸 (g/100ml)	試験年次
中央農試	ノースブラック	5.11	7. 7	9.28	274	5.9	9.3	17.3	0.52	1987～1991
	キャンベルアーリー	5.11	7. 7	10. 7	309	5.9	24.4	18.0	0.82	
	ポートランド	5.13	7. 4	9.28	257	5.8	10.0	15.8	0.47	
仁 木	ノースブラック	5.11	7. 3	9.22	482	4.7	45.8	15.3	0.34	1987～1991
	キャンベルアーリー	5.12	7. 5	9.25	589	6.8	31.6	15.9	0.53	
	ポートランド	5.11	7. 2	10. 1	482	5.5	23.9	14.2	0.37	

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 37-41(1992)。

6. ハスカップ

(1) ゆうふつ (系統名 HC1) 1990年

登録番号: その他北海道第16号

(種苗法) 第3033号

来歴 本品種は, 中央農業試験場が1967年以来苫小牧市沼の端から収集した自主株やそれに由来する実生株について, 1978年より樹性, 収量, 果実品質などの調査を行い, 1986年にそれらの株の中から果実が大きく, 収量の高い個体を選抜し, 「HC1」の系統番号を付け各種の試験を行い, 1990年に優良品種となった。

特性概要

1. 樹姿は開張性で, 樹勢は強く, 株の大きさは大である。枝の着生は密で太く, 枝の色は濃褐色である。頂芽の形は長卵形で大きさは中, 腋芽の大きさは大である。成葉の形は楕円で大きさは中である。花冠の形はロート形で, 色はクリーム色である。
2. 発芽期は4月上旬で, 開花始期は早く, 着色始期もやや早い。収穫始は6月末～7月上旬で早生種である。
3. 一新梢当たりの着花数は在来1号よりもやや劣るが, 他の系統と比較して同等以上である。自家結実率は28%で調査系統中最も高く, 自然受粉による結実率は72%で在来3, 4号よりも高い。

4. 早期落果及び後期落果は殆どみられないが, 成熟果の果実と果梗の分離は容易で, 収穫が遅れると, 多少の落果をみる。

5. 成株の収量は他の系統より優る。

6. 一果重は大きく, 在来1号と同等で在来3, 4号より優った。果実の形状は鈍子形で, 色は青黒色, 硬さの中, 果皮は薄く, 果実の日持ち性はよくない。果汁糖度は在来1, 4号より低く, 果汁酸度は他の系統と比較して低く, 種子数は少ない。

7. 色素含量が高く, アスコルビン酸含量は中位で, 酸含量が低く, 種子数も少ないことから加工原料として適する。

8. 秋または春の休眠枝ざしの活着は良好で生育旺盛な苗を得ることが出来るため, 増殖は容易である。

9. 耐病虫性は通常の栽培においては他の系統と同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は, 新植または改植更新の際は, 交配関係の良い2～3系統を混植する。樹勢が強く, 開張性であるので, 株間をやや広めとし, 270～330株/10a程度の栽植とする。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	満開期 (月日)	収穫始 (月日)	収穫終 (月日)	株当たり 収 量 (g)	10 a 当たり 収 量 (kg)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	自家結率 (%)
中央農試	ゆ う ふ つ	4.10	5.21	7. 1	7.18	1,710	678.9	10.5	2.47	28.0
	在 米 1 号	4.11	5.22	7. 5	7.13	980	389.1	11.1	3.01	12.8
	在 米 3 号	4.11	5.23	7. 5	7.14	1,088	431.9	10.3	3.11	10.9
	在 米 4 号	4.11	5.24	7. 5	7.13	869	345.0	10.7	3.16	11.8

注 1) 試験年次は1988年～1989年、樹齢は1989年でさし木5年生である。

2) 糖度はブリックスの値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 28-32(1990)。

2) 田中静幸 等, 北海道立農試集報, 67, 29-41(1994)。

7. ラズベリー (キイチゴ)

(1) チルコチン (原名 チルコチン) 1992年

登録番号: (北海道) ラズベリー準輸第1号

来歴 本品種は、カナダ農務省農業研究所において「サムナー」×「ニューバーグ」の実生より選抜、育成され1978年に発表された。1980年に恵泉女学園短期大学の松井仁氏により日本に導入され、1983年に農林水産省北海道農業試験場に配布され、以後各種の試験を行い1992年に優良品種となった。

特性概要

1. 樹姿は直立開張性で、樹勢は強く、耐寒性も強い。樹の大きさは中型、休眠枝は太い。
2. 場内での発芽期は4月19日前後、展葉期は4月29日前後、開花期は6月19日前後で早生種の「セプテンバー」より遅く、晩生種の「ゴールデン・クイーン」より早い。
3. 場内での成熟始めは7月21日前後、収穫期は7月下

旬～8月下旬である。

4. 1株当たりの年平均収量は、3.5kgで「セプテンバー」と同程度で他の対照品種より多く、供試品種中で最も多い。
5. 果形は長円錐形、果色は成熟すると鮮紅色になる。果実の大きさは1果平均重では3.4g、最大粒平均重6.5gと大きく、果形の揃いも良い。果実は硬く収穫後の果形が崩れにくい。糖度は10%、クエン酸は多く2.0g/100ml以上で食味は酸味が強い。

栽培適地と奨励態度

北海道の果樹(全般)栽培地帯全域に適す。栽培上の注意は、きいちごは前年に地際から伸長した新梢に結実し、結実した枝は収穫後に枯死するため、翌年の結果母枝(親茎)を確保する必要がある。整枝、剪定は融雪後に行い、地上80～100cmで切り詰め、株仕立ては1株に強い結果母枝(親茎)を7～10本とする。ナミハダニの発生に注意する。

(2) ヌートカ (原名 ヌートカ) 1992年

登録番号: (北海道) ラズベリー準輸第2号

来歴 本品種は、カナダ農務省農業研究所において「カーニバル」×「ウイラーメット」の交配実生より選抜、育成され1978年に発表された。1980年に恵泉女学園短期大学の松井仁氏により日本に導入され、1983年に農林水産省北海道農業試験場に配布された。以後各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。

特性概要

1. 樹姿は直立開張性で、樹勢は強く、耐寒性も強い。
2. 場内では、発芽期は4月22日前後、展葉期は5月2日前後、開花始は6月20日前後である。
3. 場内では、成熟始めは7月22日前後で、収穫期は7月下旬～8月下旬である。
4. 1株当たりの年平均収量は3.2kgで「セプテンバー」と同程度かやや劣るが他の対照品種より多い。
5. 果形は長円錐形、果色は成熟すると暗紅色になる。

果実の大きさは1果平均重で3.4g、最大粒平均重6.6gと大きく、果形の揃いも良い。果実の硬さは「カスバート」並に硬く収穫後の果形が崩れにくい。糖度は11%、クエン酸は2.0g/100ml前後、食味は甘味が強

く良好である。

栽培適地と奨励態度

「チルコチン」に準ずる。

(3) スキーナ (原名 スキーナ) 1992年

登録番号：(北海道) ラズベリー準輸第3号

来歴 本品種は、カナダ農務省農業研究所において「クレストン」×「SHR16010/52」の交配実生より選抜、育成され1978年に発表された。1980年に恵泉女学園短期大学の松井仁氏により日本に導入され、1983年に農林水産省北海道農業試験場に配布された。以後各種の試験を行い、1992年に優良となった。

特性概要

1. 樹姿は直立開張性で、樹勢は強く、耐寒性も強い。
2. 場内では、発芽期は4月21日前後、展葉期は5月2日前後、開花始は6月24日前後である。

3. 場内では、成熟始めは7月24日前後で、収穫期は7月下旬～8月下旬である。

4. 1株当たりの年平均収量は3.2kgで「セブテンバー」と同程度かやや劣るが、他の対照品種より多い。

5. 果形は長円錐形、果色は成熟すると暗紅色になる。

果実の大きさは1果平均重で3.4g、最大粒平均重6.5gと大きく、果形の揃いも良い。果実の硬さは「カスバート」並に硬く収穫後の果形が崩れにくい。糖度は10%、クエン酸は2.0g/100ml以下で食味は中程度である。

栽培適地と奨励態度

「チルコチン」に準ずる。

試験場名	品 種 名	発芽期 (月日)	開花盛 (月日)	成熟始 (月日)	収 穫 時 期 (月日)	一 果 平均重 (g)	1株当たり 収 量 (kg)	糖 度 (Brix)	クエン酸 (g/100ml)
北海道農試	チルコチン	4.19	7.5	7.21	7.19~8.26	3.4	3.5	10.0	2.33
	ヌートカ	4.22	7.5	7.22	7.21~8.25	3.4	3.2	10.8	1.97
	スキーナ	4.21	7.10	7.24	7.22~8.26	3.4	3.2	9.6	1.87
	セブテンバー	4.17	6.26	7.10	7.10~8.22	2.4	2.3	9.7	2.26
	ラーザム	4.20	7.10	7.26	7.25~8.25	2.1	2.3	9.5	1.55
	フレミング・ ジャイアント	4.17	6.29	7.12	7.11~8.18	1.8	1.5	9.1	1.58
	カスバート	4.21	7.10	7.28	7.24~8.24	1.8	1.6	12.1	1.46
	ゴールドン・クイーン	4.20	7.11	7.30	7.26~8.28	1.8	2.8	12.0	1.31

注 1) 試験年次：1986～1989年、収穫時期：1985～1991年の平均値。

2) 平均重・糖度は1985～1989年、クエン酸の値は1987、1990～1991年の平均で示す。

参照 1) 北海道農政部編、平成4年普及奨励ならびに指導参考事項、41-44(1992)。